

STOP! 一酸化炭素中毒

一酸化炭素（CO）は無色、無臭の気体で血液中のヘモグロビンと結合しやすく、酸素の250倍の親和性があることから酸素の運搬能力を失って体内の酸素欠乏を引き起こし、少量でも命の危険性があります。

特に、ガス機器や石油機器は大量の酸素を消費するため、密閉空間で使用した場合、酸素欠乏により不完全燃焼を起こしてCOが発生します。

後遺症が残ってから、命を失ってからでは手遅れです。

事前対策を十分に講じましょう。



北九州西署公式キャラ
たつのりくん

近年発生したCO中毒災害

業種	概要
パン販売	ガスベーカリーオーブンを使用していたところ2名が体調不良となった。換気扇を付け忘れていた。
飲食店	厨房でガスコンロを使用していたところ2名が体調不良となった。換気扇は動いていたが、エアコンを付けて窓を長時間閉め切っていたため、新鮮な空気が十分に取り込めていなかった。
病院	厨房でガス食器洗浄機を使用していたところ十数人が体調不良となった。換気扇は動いていたが、排気ダクトの出口に取り付けられていた金網が目詰まりしていたため排気が十分に行われていなかった。
飲食店	厨房で炭を使っていたところ2名が体調不良となった。換気扇のスイッチを入れてファンの音は聞こえていたが、ファンベルトが切れており排気できていなかった。
建築工事	建物内のコンクリート床をエンジンカッターで切断していた1名が体調不良となった。窓1か所を開けていたが、空気の入れ替えが不十分だった。
土木工事	立坑内で作業を行っていた1名が体調不良となった。立坑内でガソリン発電機を使用していたが換気を行っていなかった。
飲食店	客席で炭を使用して肉を焼いていたところ客を含めた十数人が体調不良となった。換気扇は動いていたが、排気ダクトに油汚れがたい積して排気が十分に行われていなかった。
旅館	大浴場に湯を張るためガスバーナーに着火してその場を離れ、しばらくして様子を見に戻ったところ体調不良となった。着火不良で不完全燃焼となっていた。

CO中毒予防対策

1 取扱説明書を確認し、安全衛生対策を行う

メーカーは安全対策を講じて販売しているが、それでも残るリスクと対策が記載されている重要な書類なので使用前に読んで理解する。
労働者を雇い入れる場合は、COの有害性や遵守事項を教育する。
特に重要な事項は作業場の見やすい場所に表示する。

2 換気が必要な場合

換気設備の設置場所や風量が問題ないか確認する。
空気を外に追い出す（排気）のであれば、新鮮な空気を外から取り込む（給気）必要があるため、取り込み口を確保する。
換気設備のスイッチを入れ忘れることがないように、ガス機器や石油機器と換気設備を連動させ、機器の電源を入れたら換気設備が動くようにする。
エアコンは基本として換気が行われないことを認識する。
換気設備が空気を吸い込んでいるか毎日確認する。
専門業者による定期点検を受ける。



3 警報器の設置が必要な場合

COガス警報器および燃料に応じた警報器を設置する。いずれも**業務用**を選択する。
専門業者に正しい位置に取り付けてもらう。
頻繁に警報が鳴ったら警報器を疑うのではなく、警報器の周囲を疑う。
定期点検を行う。
警報器は使用期限が定められているため、全国労働衛生週間準備期間である毎年9月に各警報器を確認し、余裕をもって取り替える。



厚生労働省CO中毒予防関係通達



福岡労働局パンフレット



北九州西労働基準監督署からのお知らせ



経済産業省パンフレット



メーカーのみなさまへ

労働安全衛生規則第24条の13により、機械を譲渡または貸与する者に対し、「機械に関する危険性等をその機械の譲渡または貸与を受ける相手方事業者へ通知すること」を**努力義務化**しています。よって、残留リスクを確実に通知すると共に以下に留意して下さい。

- 1 特に重要な事項は取扱説明書に記載するだけでなく、機器の見やすい位置に表示すること。
- 2 残留リスクの低減対策として換気設備の稼働を求める場合は、能力や設置場所が貴社の求める要件を満たしているか販売者等において確認すること。
- 3 残留リスクの低減対策として警報器の設置を求める場合は、仕様や設置場所が貴社の求める要件を満たしているか販売者等において確認すること。
- 4 機器の定期点検を行う際は、換気設備や警報器の状態確認を行っていただきたいこと。

機械の危険情報に関する通知



メーカーのための機械工業界リスクアセスメントガイドライン

